

							石川県立高浜高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
1 学力の向上 (1)生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習活動に取り組む態度を養う。 (2)シラバスの改善を図り、充実した活用に努める。	① 研修・研修講座に積極的に参加し、公開授業を展開して授業の改善を進める。	各教科 教務課	日頃から教科指導の改善・研修等に努めているが、校内研究授業・授業改善に向けてさらに努める必要がある。	【努力指標】 教科ごとに公開授業を実施し、互いに授業参観して授業改善を進める。	公開授業を実施し、外部の意見等を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善がある程度進んだ。 C：授業改善があまり進まなかった。 D：授業改善が全く進まなかった。	A+Bの合計が70%未満であれば再検討する。	教職員にアンケート調査し前期末に中間集計、1月末に最終集計	
	② 適切な課題の出題、考査と考査の間に2回以上確認テストを行うなどで、家庭学習の意欲を高め基礎学力の向上を図る。	各教科 教務課	昨年の調査によれば、家庭学習時間の一日平均は、前期22分、後期20分であった。	【成果指標】 家庭学習時間を、一日平均1時間以上確保している。	家庭学習時間を、一日平均1時間以上確保できている生徒が A：60%以上である。 B：50%以上60%未満である。 C：40%以上50%未満である。 D：40%未満である。	C、Dの場合は、再検討する。	生徒にアンケート調査し前期末に中間集計、1月末に最終集計	
	③ 生徒の実態の把握に努め、シラバスの改善を図り、授業内容・進度等の改善に努める。	各教科 教務課	授業改善に向けて、シラバスの改善と授業内容・進度等の改善に努める必要がある。	【努力指標】 各教科・科目ごとにシラバスを見直し、授業改善に努める。	シラバスの改善を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善がある程度進んだ。 C：授業改善があまり進まなかった。 D：授業改善が全く進まなかった。	A+Bの合計が70%未満であれば再検討する。	教職員にアンケート調査し前期末に中間集計、1月末に最終集計	
2 進路の実現 (1)家庭とも連携し、個々の能力、適性等に応じた進路実現を目指す。 (2)早期の就職内定に向けて、積極的な指導に努める。	① 補習授業を行い、進学希望者の実力向上を図ると共に、各種模擬試験を実施し、分析結果を進学指導に活かす。	進路指導課 学級担任	クラスの中でも教科により、理解の進んでいる生徒と基礎学力がない生徒の差が大きい。	【努力指標】 補習授業への参加率を高める。	進学希望者の補習授業の参加率が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	C、Dであれば、内容企画を再検討する。	学期毎に出席・参加者数の集計	
	② インターンシップを通じて自己の職業生活をたくましく切り開いていこうとする意欲や態度を身につける。	進路指導課 2年学年団 3年学年団	進路希望調査において未定の者が少なからずいる。	【成果指標】 年度当初の進路希望調査で未定の数が、インターンシップ後に減少する。	インターンシップが進路決定の参考になると答えた生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	C、Dであれば実施方法・内容等を再検討する。	インターンシップ後にアンケート集計	
3 基本的な生活習慣の確立、在り方・生き方教育 (1)登校指導、巡回指導、授業規律の確立、携帯電話のマナー指導等に取り組む。 (2)自尊感情を向上させ、自己肯定感を育み、「生きる力」を醸成する。	① 全教職員による登校指導をはじめ、校内・外巡視の充実を図る。	生徒指導課	遅刻・服装・挨拶を中心に基本的な生活習慣についての意識が低い。	【成果指標】 遅刻をしない・服装検査合格・積極的に挨拶をする生徒を70%以上にする。	遅刻を一度もしない、服装検査は一度も違反しない、挨拶を積極的にしている生徒が学校全体の A：70%以上である。 B：60%以上70%未満である。 C：50%以上60%未満である。 D：50%未満である。	C、Dの場合は改善の検討を図る。	自己評価シートにおけるアンケートを集計（1/27）	
	② 美化週間を年3回設定し、クラスごとに清掃に関する15項目のチェックを行い、環境の美化と生徒の美化意識向上を目指す。	保健指導課	昨年度の美化週間では15項目のチェックで、やや不十分なクラスがあった。	【成果指標】 美化週間での清掃について年間平均点（15項目チェックで15点満点）全クラス13点以上を目指す。	美化週間での清掃のチェックで、2、3学年4クラスのうち平均点13点以上が A：全クラスであった。 B：3クラスであった。 C：2クラスであった。 D：1クラス以下であった。	C、Dの場合は改善を図る。	各回ごとに集計、最終回終了後に年間平均を集計	
	③ 健康診断の結果を通知し、歯科受診率の向上を図る。	保健指導課 学級担任	歯科受診率は19年度26%、20年度42%であった。	【成果指標】 歯科受診率の向上を目指す。	歯科受診率が A：50%以上である。 B：40%以上50%未満である。 C：30%以上40%未満である。 D：30%未満である。	C、Dの場合は受診指導の方策を再検討する。	9月末、学年末に集計	

							石川県立高浜高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
	④ 面接・礼法指導を行い将来の社会生活に適応する生活態度の養成につとめる。	進路指導課 2年学年団 3年学年団	自分の考えを適切に表現することができない生徒がいる。	【成果指標】 面接・礼法指導を行い、生徒がはっきりと自分の考えを話せるようになる。	面接・礼法指導を受けた生徒で、自分の考えが話せるようになったと答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上90%未満である。 C：70%以上80%未満である。 D：70%未満である。	C、Dの場合、実施方法・内容等を再検討する。	1月末に最終集計	
	⑤ 年2回の面談週間実施等、個人面談により生徒理解に取り組む。また、生徒への日常的な声掛けを全職員が心掛ける。	担任 教科担任 2年学年団 3年学年団 教育相談課	アンケートによれば、面談に満足していない生徒がいる。	【満足度指標】（生徒向） 先生は個人面談の場などを通して生徒理解に努めている。	先生は個人面談等で A：生徒の理解に努めている。 B：ある程度生徒の理解に努めている。 C：あまり生徒の理解に努めていない。 D：生徒の理解に努めていない。	A+Bの合計が60%未満であれば再検討。	生徒にアンケートを実施（年2回）	
	⑥ 「生徒の理解と対応」をテーマとした校内研修会を企画、実施し、教職員の資質向上を図る。	教育相談課	生徒の実態に対応するため研修を積む必要がある。	【努力指標】（教師向） 校内研修会により生徒理解が深まる。	校内研修会により生徒理解が A：深まった。 B：ある程度深まった。 C：あまり深まらなかった。 D：全く深まらなかった。	A+Bの合計が60%未満であれば再検討。	校内研修会後に教職員にアンケートを実施	
4 体力向上と部活動の活性化 (1) 学校をあげて「体力アップ1校1プラン」を推進する。 (2) 部活動を通しての人格陶冶を図る。 (3) 競技成績の向上に努める。	① 体力アップを推進し、生徒の体力向上を図る。	保健体育科 生徒会指導課 各運動部顧問	昨年度、新体力テスト総合評価の判定でABC群は全体の77%であった。	【努力指標】 総合評価の判定のABC群を20%以上増やす。	新体力テストの総合評価のABC群の増加が A：20%以上である。 B：15%以上20%未満である。 C：10%以上15%未満である。 D：10%未満である。	C、Dの場合、取り組み体制の再検討をする。	4月と11月に新体力テストを実施	
	② 部活動への全員加入を推進する。	生徒会指導課 学級担任 各部顧問	昨年度の部活動加入率は前期96%、後期は92%である。途中で退部し再入部していない生徒がいる。	【努力指標】 部活動加入率100%を目指す。	部活動加入率が A：100%である。 B：95%以上100%未満である。 C：90%以上95%未満である。 D：90%未満である。	C、Dの場合、再検討する。	4月と10月に部活動加入状況調査を実施	
	③ 部活動を活性化する。	生徒会指導課 学級担任 各部顧問	昨年度、部活動に満足している生徒は58%である。	【満足度指標】 部活動の取り組みに対して満足感を得ている。	部活動の取り組みに対して A：十分満足している。 B：満足している。 C：満足感がうすい。 D：満足感が得られていない。	A+Bの合計が60%未満であれば再検討する。	生徒にアンケートを実施し、前期末に中間集計、1月末に最終集計	
	④ 浜高祭（文化祭・体育祭）に全校生徒が積極的に参加し、協力して行えるように課題を提供して、生徒の意識を向上させる。	学級担任 生徒会指導課	浜高祭で満足感を得た生徒は67%で、全校一丸の取り組みだったとは言えない。	【満足度指標】 生徒が浜高祭に積極的に参加している。	浜高祭（文化祭・体育祭）に A：積極的に自分の役割を果たした。 B：自分の役割をある程度果たした。 C：自分の役割をあまり果たせなかった。 D：自分の役割を全く果たせなかった。	A+Bの合計が70%未満であれば再検討する。	終了後、生徒にアンケート実施	

						石川県立高浜高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
	⑤ 「いしかわ学校版環境ISO」実践校として学校や家庭で節電や節水に積極的に取り組む。	生徒会各担任 総務課	「いしかわ学校版環境ISO」実践校に認定され、3年目である。生徒の意識の向上は見られているものの十分な実践にはいたっていない。	【努力指標】 環境週間を学期に一度実施して、学校や家庭で節電や節水に積極的に取り組む。	学校や家庭で節電や節水に対して A：積極的に取り組み十分実践した。 B：環境に配慮し実践した。 C：環境に関心があったがあまり実践できなかった。 D：全く実践できなかった。	A+Bの合計が60%未満であれば再検討する。	環境週間ごとに生徒にアンケートを実施
5 地域との連携 (1)地域から信頼される学校づくりを目指し、ボランティア活動等に取り組む。 (2)学校HP、学校便り等を通して情報発信を行う。	① 学校行事、PTA総会、講演会、研修旅行等への保護者の参加を促進し、保護者と教職員の連携を深める。	総務課 生徒会指導課 関係各課	昨年度学校行事等に参加した保護者は全体の44%であったが、活発な活動を展開した保護者は固定化していた。	【努力指標】 保護者の各種行事等への参加率を高める。	保護者が一年間で学校行事等に参加した回数が A：5回以上である。 B：3回以上5回未満である。 C：1回以上3回未満である。 D：0回である。	A+Bの合計が50%未満であれば再検討する。	学校評価アンケート内で実施
	② ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に積極的に取り組む。	生徒会指導課 総務課 各学年団	異世代交流ボランティアや祭り等の地域の行事に継続的に参加している生徒もいる。	【成果指標】 ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に積極的に参加している。	ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に A：積極的に参加している。 B：十分とはいえないが、ある程度参加している。 C：あまり参加していない。 D：全く参加していない。	A+Bの合計が60%未満であれば再検討する。	生徒にアンケートを実施し、前期末に中間集計、1月末に最終集計
	③ 3年生の課題研究及び総合的な学習の時間の研究発表会を休日に開催し、保護者や地域住民に本校の教育活動への理解を深める。	教務課 機械システム科 普通科	3年生の課題研究及び総合的な学習の時間の研究発表会は、昨年度から志賀町文化ホールで一般公開して、本校の教育活動の理解に努めている。	【成果指標】 保護者、地域住民の出席が昨年度を上まわり、内容的にも満足するものである。	研究発表会を見て、内容に満足している保護者、地域住民が A：80%以上である。 B：70%以上80%未満である。 C：60%以上70%未満である。 D：60%未満である。	C、Dの場合は、内容企画を再検討する。	発表会后、参加者にアンケート調査を実施
	④ 『総務課たより』を学校行事やPTA活動後に作成して発信する。またそれをホームページにも載せる。	総務課 教務課	PTA通信を年2回発行している。	【努力指標】 学校の様子を外部に積極的に発信する。	総務課たよりやHPを見た保護者が、本校の教育活動内容を理解できたと感じる割合が A：70%以上である B：60%以上70%未満である。 C：50%以上60%未満である。 D：50%未満である。	C、Dの場合は、内容を再検討する。	学校評価アンケート内で実施